

# 目次 もくじ

- 02 ヘルプマーク
- 03 特集- 過渡期を迎えた地域づくり
- 10 Pick Up Topics  
ふるさとへの風より
- 12 広報暮らしのカレンダー
- 14 まちの話題
- 16 MONTHLY TOPIC
- 18 ニュースファイル
- 20 Information/ 戸籍の窓
- 22 交番だより/ 福祉情報
- 23 かねがさきの音色  
バイバイむし歯菌
- 24 Face マックナー・トッドさん

《11月号の表紙》  
 実りの秋に感謝  
 産直ろくちゃん大収穫祭



産直ろくちゃんでは11月4日、収穫祭を行いました。当日は多くの人たちが訪れ餅まきや旬の野菜の買い物などを楽しみました。写真は新米を使った餅つきを参加者が楽しむ様子です。



ヘルプマーク  
 東京都で作成され、平成29年7月にJIS規格（日本工業規格）に「援助や配慮を必要としている人が身につけることで、周囲に配慮を必要としていることを知らせることができる」マークとして追加されています。

## 皆さんはヘルプマークを知っていますか？

「みなさんはヘルプマークを知っていますか」と問いかける1人の中学生。金ケ崎中学校3年の佐藤響子さんは、「目には見えなくても困っている人がいることをみんなにも知ってほしい」という思いから、中学校での学年通信や全校朝会、文化祭を利用し啓発活動に取り組んでいます。

ヘルプマークは、東京都が作成した、義足や人工関節、知的障がい、内部障

がい、発達障がい、難病、精神障がい、妊娠初期、認知症、目や耳・言語の障がい、手話や筆談が必要な人など見た目ではわからない障がいをもった人たちが周囲に配慮を必要としていることを知らせるマークです。

響子さんは、自らも病氣と闘っている経験から、4月にヘルプマークの存在を新聞で知り、困っている人の悩みを少しでも解消できるようにと学校に相談し、啓発活動をスタートさせました。10月17日には全校生徒の前でヘルプマークについて紹介。金ケ崎中学校の皆さんに理解してもらおうと、助け合いの輪が広がりますと力強くその必要性を伝えました。



文化祭の展示でヘルプマークを紹介する響子さん

壇上で全校生徒に思いを伝える

**ヘルプマークを身につけている人を見かけたら**

- ♥ 電車やバスの中で席をお譲りください
- ♥ 駅や商業施設等で声をかけるなどの配慮を
- ♥ 災害時は安全に避難するための支援を



次世代への継承

防災

# ◎特集 過渡期を迎えた地域づくり

過渡期とは・・・ある状態から新しい状態に変化していく時期のこと



話し合い

地域とのつながり

**私**たちの暮らしは、地域のたくさんの人たちの協力成り立っています。

例えば、自治会があることで、地域内の役割分担やルールの中で安心な地域が維持され、公衆衛生組合の係の人が、ごみステーションを管理することで衛生的に使用することができます。子どもたちの安全・安心を維持するために、防犯灯の設置や管理、青少年の非行防止などのパトロールも地域の人たちによって行われ、スクールガードや交通安全に関わる活動で安全が確保されています。また、高齢者にとって隣近所の支え合いや除排雪、通院や買い物の際の支援があることも安全・安心に暮らすことができる大切な関係性のひとつです。しかし、地域によって、高齢化や人口減少、勤務形態の多様なライフスタイルの変化から、これまでの地域の助け合いの仕組みを維持することが難しくなっています。変わりゆく社会の中、暮らしやすい地域を維持するため、今一度立ち止り考えてみる必要があるかもしれません。

将来にわたり持続可能な地域づくりを進めるため、町では「地域づくりのあり方検討会」を設置し、これからの課題に対応するため調査・検討した内容を本記事で紹介いたします。